

小御岳神社

小御嶽神社は、富士スバルラインの五合目ターミナル周辺のレストランや土産物店の後に隠れています。この小さな平原は、実は 14,000 年前から富士山を生み出した溶岩流にそのほとんどを飲み込まれてしまった小御岳山の山頂です。小御岳神社は、富士山周辺の様々な神社に祀られている木花咲耶姫の姉、磐長姫を祀っています。

五合目周辺のエリアは、「天狗の庭」として知られています。天狗は、獰猛で体の一部が鳥である強力な霊力を持った神話上の生き物で、しばしば人里離れた山にいるものとされています。毎夏、2 匹の天狗が神社の眷属として正式な山開きの儀式を行います。伝説によると、境内にある巨大な斧は天狗が贈ったものとされています。参拝者は自由に持ち上げることができますが、たまに来る力士を除いてはほとんど成功 する人はいません。

中の宮

富士講巡礼者向けに 1847 年に用意された挿絵付きのガイドブック、富士山真景之図には、小御嶽神社が富士山北壁に数ある聖地の中でも重要な中継地だったことが記載されています。五合目は、頂上へとつながる吉田登山道が、富士山の周囲を回る道、御中道と交わるため、富士講巡礼者は小御岳神社を中の宮と呼びました。この神社は、彼らの参拝の「証明」に重要な役割を果たしました。巡礼者は、木版印刷された証明書、番号入りのストックを購入したり、さらには衣服に御朱印を押してもらうこともできました。